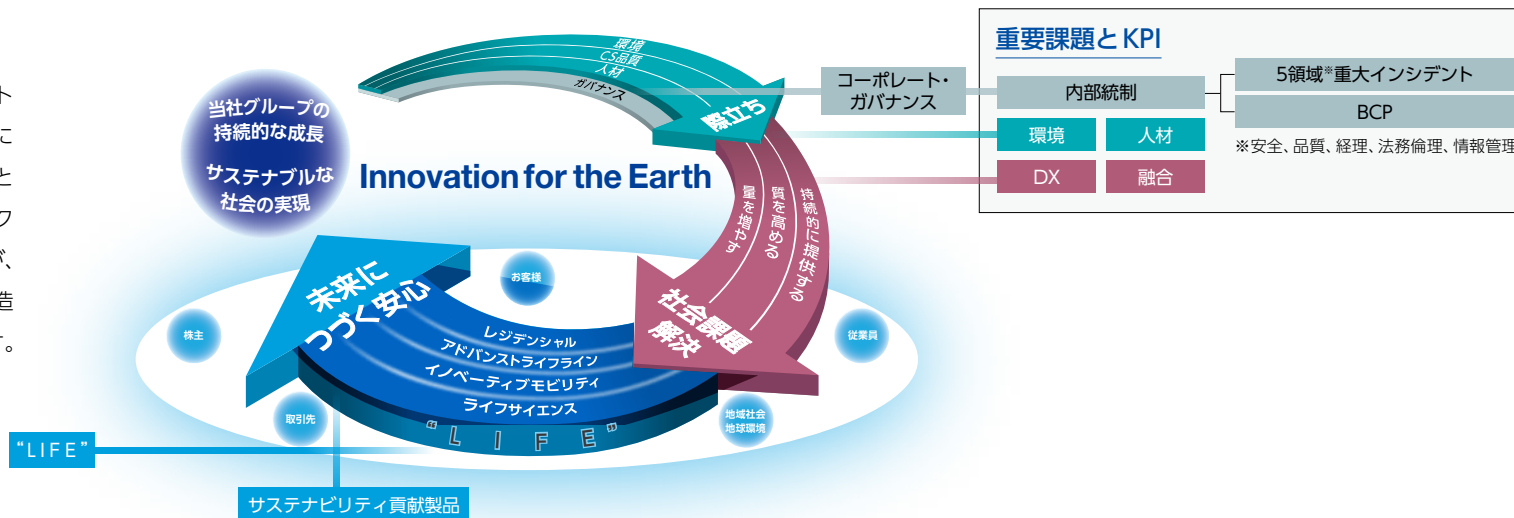


# 積水化学グループのESG経営

積水化学グループでは、社会課題の解決貢献に取り組むことは、社会の持続性向上に直結しており、貢献の対価である売上高は、社会課題解決貢献量であると考えています。そしてその貢献の質量を向上させることで当社グループの持続的な利益ある成長を図ることができ、またそのことで、お客様、株主、従業員、取引先、地域社会・地球環境といったすべてのステークホルダーへの貢献をさらに拡大していくことができます。

## ESG経営概念図

“Innovation for the Earth”というステートメントを中心に捉え、際立ち、社会課題解決貢献量、未来につづく安心の提供で、サステナブルな社会の実現とグループの持続的成長につなげます。こうしたサイクルを、ステークホルダーとともに実践していくことが、われわれのESG経営の概念です。当社の価値創造プロセスは、この概念図をベースとして作成しています。



4つのドメイン(事業領域)を中心に、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”の創造を追い求めています。

## 重要課題(マテリアリティ)の特定

長期ビジョン「Vision 2030」実現のため、2020-2022年度の中期経営計画「Drive 2022」では、内部統制、DX、環境、人材、融合をESG重要課題(マテリアリティ)と定め、ESG経営を進めています。重要課題の特定にあたっては、国連グローバル・コンパクトをはじめとするグローバルガイドライン、ESG/CSRアンケートや他社動向から課題を抽出し、ステークホルダーの意見・期待の分析を行い、「ステークホルダーにとっての重要性」「積水化学グループの経営にとっての重要性」の2軸で総合的に評価し、決定しています。

				KPI	2021年度実績	2022年度目標			
<b>アウトプット</b>	<b>サステナビリティ貢献製品およびプレミアム枠</b>			利益創出力、課題解決貢献力、持続経営力を牽引	サステナビリティ貢献製品およびプレミアム枠売上高	7,724億円 うちプレミアム枠 3,812億円	8,000億円 うちプレミアム枠 4,400億円	▶P.43	
<b>重要課題 (マテリアリティ)</b>	リスクの軽減・回避	内部統制	5領域 重大インシデント抑制	安全 品質 経理 法務・倫理 情報管理	重大インシデント発生による企業価値毀損を防ぐ	5領域重大インシデント発生件数	0件	0件	▶P.68
			BCP		地震・パンデミック等インシデント発生時の影響を極小化	BCP運用率	BCP(初動対応)策定率100%	BCP運用率100%(PDCAの定着)	▶P.67
	将来への投資 (持続性KPIの向上)	DX			業務プロセスやビジネスモデルの変革ドライバーとする	直接/間接人員あたり売上高	N/A	30年度:間接生産性40%増 直接生産性15%増(19年度比)	▶P.28
		環境			気候変動課題に対応する	購入電力の再生可能エネルギー比率	19.7%	20%	▶P.39
		人材			従業員が挑戦したくなる、活力あふれるいい会社を目指す	挑戦行動の発現度	13%	17%	▶P.37
		融合			技術、事業機会の社内外融合推進	融合による売上高増分	+299億円 (19年度比)	+500億円 (19年度比)	▶P.22